私、頑張りました

2021 年の初秋、私は高校を辞めた。

やりたいことなんて何もなかった。世間はコロナ禍だなんだって言って、全てを諦めさせた。それでも、勉強がしたい、と思い、田舎町からこの学校に入学した。知らないことを知るのはとても楽しい。クラスメイトの顔を一人も顔を知らないまま、毎日一人で、少しずつ学習した。高卒認定だって取った。でも、周りのみんなは、毎日学校に行っている。土日にバイトだってする。看護学生の友達は、この間実習に行ったらしい。私のがんばりなんて、これっぽちも大変じゃない。週に一、二回行っているバイト先の喫茶店で、暇な時にはテキストを開いていた。「君、勉強しているの。偉いね。」常連さんに言われた。でも、ちっとも偉くない。みんなはもっと頑張っているんだから。ネットでは、こんな書き込みがあった。「受験なしで入れる学校なんて、たかが知れている。」「就活で不利になるに違いない。」その書き込みを見た日の夜は、眠れなかった。

オンライン授業だけでは、単位がどうしても足りなくて、札幌に引っ越した。親元を離れて暮すのは初めてだった。面接授業のクラスメイトたちには、様々な事情があって、様々な人生があった。様々な人生があるから、様々な考えが生まれる。それを聞いて、伝えて、また新しい考えが生まれる。みんなと一緒に学ぶのはこんなに面白いんだ、と知った。同い年ぐらいの友達もできた。同じ新卒での就職を目指す仲間だ。一緒に就活頑張ろうね、と励ましあった。

卒業研究にも挑戦した。就職活動をしながら、研究を進める毎日。わからないこともたくさんあったけど、ほとんどのことは、今まで勉強したことと繋がっていた。何とか書き上げて、提出できたのは締め切りの最終日。出来上がった文章は、稚拙ながらも論文とは言えそうなものに見えた。田舎で一人、半分も理解できずに読んでいたような学術論文を、私は書き上げたのだ。あの頃の孤独な学習も、みんなで考えあった勉強も、全て私の身となり、確かな力となっていたのだ。そう思うことができた。誇らしい気持ちだった。そのことの価値は、何にも代えられない。一生涯、私の人生の中で輝くものになる、と確信した。

卒業の予定が確定して、程なく私の論文が優秀作品に選ばれたと通知を受けた。よく頑張りましたね、と教授からのメール。私はお礼のメールを返信する。春から働く予定の会社の方から、「短い年数での卒業は難しいと聞きました。頑張ったんですね。」と褒められた。かつてネットで見たような言葉がふと脳裏によぎる。彼らはきっと、私がこの大学生活を通して感じたような気持ちを、この素晴らしい気持ちを、まだ持ち合わせていない
のだろう。そんな人たちの未熟な言葉は、今の私には響かない。私の人生には必要ない。

私は、胸を張ってこう答えた。

「はい。私、とっても頑張りました！」

2026 年３月心理と教育コース卒業・ビス子